

『富士見町史』下巻 目次

発刊のことば 富士見町長 矢嶋 民雄 i
監修にあたって

——『富士見町史 下巻』——の特色はどこにあるのか

監修者 上條 宏之 iii

例 言 viii
集落名の一覧表 ix

近代編

第一章 維新期の村々から四か村成立へ

第一節 村の政治の始まり 五

一 藩から廢藩置県 合県へ 五

(1)維新改革と富士見／(2)高島藩から高島県 築摩県へ

二 戸籍区 大区小区制と富士見町域四か村の成立 一〇

(1)宗門改めから壬申戸籍へ／(2)大区小区制と町域四か村の

成立

三 長野県政と郡区町村編制法による諏訪郡 村政 一六

(1)筑摩県の廃止と長野県への合併／(2)自由民権運動と明治

天皇巡幸

第二節 地租改正と諸産業の新しい動き

一一一

四 鉱工業・商業と金融

四八

一 地租改正 徴兵令と村民負担 三一

(1)国税 地方税と村財政／(2)地租改正と村民の負担／(3)徵

兵令と西南戦争

二 土地利用と明治初期の農業生産 三〇

(1)四か村の土地利用と農業生産

三 林野と林業 三一

(1)筑摩県政下の富士見町域林野／(2)長野県政下の富士見町域林野／(3)釜無山林野の動き／(4)八ヶ岳山林野の動き／(5)

南原山 下原山の動き

(1)明治初期の鉱工業／(2)村々の商業／(3)無尽や講	第三節
社会の規制解除と文明開化による教育 文化	七三
一 新しい交通運輸体制と郵便制度	七三
(1)道路管理と新県道の開削／(2)新しい運輸組織／(3)郵便業	
務の開始と葛木郵便局	

二 新しい社会生活の開始	七九
(1)古い秩序の打破と改革／(2)村人の暮らし／(3)明治初期の	
秩序	
たち／(5)小学校令の施行	

医療体制と伝染病の流行／(4)村民生活と僕約／(5)村誌に記された明治初期の名勝地

三 文明開化と学校教育の始まり

(1)寺子屋と子どもたち／(2)学制の布達と小学校の設立／(3)	
教育令 改正教育令と学校教育の変化／(4)小学校と子ども	

たち／(5)小学校令の施行

第二章 四か村の村政確立と国政の村民生活への浸透

第一節 四か村村政の確立と村政への村民参加	一一一
一 町村制による村役場と村政	一一一
(1)四つの村役場と村政／(2)村委会と村委会議員の選挙／(3)村財政と村民の負担／(4)区制など村政を支えた下部組織	
二 郡会の成立と県政 国政	一一七
(1)郡制の施行と諏訪郡役所 諏訪郡会／(2)県政 県会議員選挙と富士見町域／(3)衆議院議員選挙と普通選挙運動／(4)	
初期社会主義運動の台頭	

第二節 四か村の産業 経済近代化の進展

一 農業の発展と農業団体の成立	一二三
(1)明治後期の稻作／(2)明治期の養蚕業／(3)農会 産業組合	
の設立／(4)産馬組合と乙事の馬市	
二 御料林の成立と村民の林野利用	一四七

(1)御料林の成立／(2)南原山 下原山の分割／(3)八ヶ岳広原の植林／(4)山梨県恩賜県有財産と金無山川東内山／(5)区有	
--	--

三 村立小学校 高等小学校と青年会	二〇四
(1)村立小学校と村の教育行政／(2)教育勅語と御真影／(3)高等小学校・実業補習学校 中等学校／(4)葛木学校と岩本	
節次／(5)樋口勘治郎／(6)青年会の成立と活動／(7)地方俳壇	

第三章 大正デモクラシーと富士見町域

など村民文化

第一節 大正期の国政

県政と町村の動向	一一一
一 大正期の政治と社会	一一三
（1）政治 行政の新しい課題／（2）富士見町域の市政と四か村の動勢	一一三

第二節 養蚕 製糸業の発展と産業構造の変化

一 養蚕の拡大と大正期の農業生産	一三八
（1）大正期の稲作／（2）大正期の養蚕業／（3）農会 産業組合活動の進展／（4）瀬沢新田の耕地整理事業	一三八

二 区（部落）有林野の統一と村政 村民の林野利用	二五一
（1）大正期の植林／（2）御料地所在町村と御下賜金	二五一

第三節 産業構造の変化と商工業 金融業

（1）在来工業の変遷／（2）山六製糸工場と信富生糸組合／（3）落合生糸組合／（4）製材業と天然氷の採取業／（5）富士見商工会の設立／（6）富士見銀行の発展／（7）富士見倉庫株式会社の設立	二五七
---	-----

第四節 交通の多様化、村社会の流動化と

一 交通 通信の多様化と鉄道利用の進展	一七三
（1）中央線利用の増大と信濃境駅の開業／（2）信濃境駅周辺の変化／（3）郡道 県道 国道の整備／（4）自動車輸送の開始／（5）富士見郵便局の開設と鳴木郵便局の無集配化／（6）電信電話通信の拡大	一七三

第五節 社会の流動化と海外移民

一 教育・文化の向上	二二二
（1）海外移民の始まり／（2）電灯の普及と生活の変化／（3）公設消防の確立と整備／（4）富士見駅前の大火／（5）富士見高原診療所の設立と変遷／（6）地域医療体制の進展／（7）白林莊と大養木堂／（8）観光旅館と農閑憩いの湯／（9）御射山祭の草競馬と富士見競馬	二二二

第六節 大正期の教育と文化

一 交通 通信の多様化と鉄道利用の進展	一七三
（1）小学校教育／（2）平野農蚕学校と平野高等女学校／（3）諏訪郡教育会の創設と活動／（4）富士見高原と文人たち／（5）青年会と処女会の活動／（6）婦人会の結成と活動	一七三

第七節 農村不況・戦時体制と富士見町域

一 農村不況と満州移民	三三五
（1）世界恐慌 農村不況と村政 村民	三三五

第八節 第四節 農村不況・戦時体制と富士見町域

一 交通 通信の多様化と鉄道利用の進展	一七三
（1）昭和前期の稲作／（2）高冷地稲作の改善（I）／（3）昭和初期の養蚕業／（4）農業経営多角化への模索／（5）御料地の払い下げと官行造林	一七三

不況期 戰時期の交通 通信と社会生活 四〇〇

屯開拓団 / (3) 旭日落合開拓団 / (4) 諏訪地域ですすめた分郷

開拓団 / (5) 満蒙開拓青少年義勇軍

第二節 満州事変 日中戦争と戦時体制 三七八

一 満州事変 日中戦争と富士見町域 三七八

(1) 戦争の進行と村民生活 / (2) 防空演習と監視哨

二 太平洋戦争下の富士見町域 三八七

(1) 太平洋戦争と富士見町域の人々 / (2) 大政翼賛壯年団と大日本青年団 / (3) 愛国 国防婦人会から大日本婦人会へ

三 経済不況期から戦時体制期の国会議員

県会議員 三九二

第三節 戦時体制下の産業 経済 三九三

一 戦時下の農林業 三九三

(1) 食糧増産と供出制度 / (2) 農業団体の統一と農業会の発足

第五節 経済不況期 戰時期の教育と文化 四二二

二 諏訪郡南部実科中等学校の設立と推移 四二二

(1) 諏訪郡南部実科中等学校の設立 / (2) 農村不況期の実科学と小尾校長

三 戰時期の教育と文化 四三三

(1) 小学校から国民学校へ / (2) 青年学校と中等教育 / (3) 戰時

下の校舎建設と村民体育祭 / (4) 戰時期の文化活動

第二節 現代編 三九四

第一章 戰後富士見町域の民主化と経済復興

第一節 四か村の村政と占領下の民主化 四四一

一 敗戦と民主化の動き 四四一

二 昭和二十年代の村財政 四四五

三 四か村合併への道のり 四四九

四 農業 林業の再出発 四五五

五 員の選挙 四五五

(1) 農地改革と農業委員会の発足／(2) 農業協同組合の成立

二 米作日本一と高原野菜の生産

(1) 食糧危機と供出／(2) 高冷地稻作の改善 (II)／(3) 高原野

菜の出荷／(4) 富士見町域の大根漬け

三 養蚕の復活 推移と酪農の発達

四七九

(1) 戰時下の養蚕減少と戰後の復活／(2) 稚蚕共同飼育と養蚕

の消長／(3) 酪農による農村づくりと集約酪農地域指定

四 戰後林野の動向

四八七

(1) 川西釜無山の払い下げ／(2) 広原分割協定／(3) 大沢山の分

割／(4) 戰後の官行造林 県行造林／(5) 森林法施行と町村林

第五節 野

四九五

第三節 工業 鉱業の新展開

四九五

一 在来鉱工業の回復

四五

(1) 寒天業／(2) 製材業／(3) 石灰業

二 戰後の新興工業

四九七

(1) 昭和機械／(2) 鋸の行商と富士製鋸／(3) 五味縫製

第四節 新たな商業・金融業

五〇一

一 商業の自由化と発展

五〇二

(1) 戰後の物資不足と配給制度／(2) 商業経営者の結束の動き

二 金融統制の撤廃と富士見町域の金融業

五〇八

(1) 八十二銀行が富士見村に開店／(2) 諏訪信用金庫富士見支

店の開設

第五節 觀光の新たな展開

五一〇

一 入笠山のハイキング

五一〇

二 渓谷の名勝金無湖

五一二

第六節 交通運輸 通信の再建と整備

五二三

一 交通運輸の再建と道路整備

五二三

(1) 鉄道輸送／(2) 交通網の整備

五二六

二 通信機関の発達

五二六

(1) 特定郵便局と簡易郵便局／(2) 電信 電話事業の進展

五二九

三 社会福祉 (厚生事業) の進展

五二九

一 地域医療体制の進展

五一九

(1) 国民健康保険の再開と充実／(2) 富士見町域の診療所と病院／(3) 高原療養所から高原病院へ

二 季節保育所から通年保育園へ

五一四

一 民生委員制度の発足

五一四

(1) 保育所の設立／(2) 児童福祉法と実践

五一四

二 社会生活の立て直し

五一四

一 敗戦・引揚げと再起

五一八

(1) 難民となって／(2) 再起をかけた新たな開拓

五一八

二 新しい時代の創造

五四〇

(1) 新しい社会づくり／(2) 大凶作と救農事業／(3) 新しい消防

五四〇

一 戰後の教育改革と文化

五四五

一 教育の民主化と六三制の発足

五四五

(1) 占領下の教育と新学制の発足／(2) 分教場教育の推移と終焉／(3) 教育委員会とPTA／(4) 学校給食の開始／(5) 新制高

五四五

等学校の発足／(6) 富士見高原中学校

五四五

(1) 公民館活動の始まり／(2) 社会教育とナトコ映画／(3) 富士

五四四

第二章 経済の高度成長から低成長への動きと富士見町の成立

発展

第一節 富士見町の成立と発展	五六三	第三節 工業・鉱業の構造的变化	五六一
一 富士見町の発足	五六三	一 精密工業の発展と中小企業	六三〇
(1)新町政の発足／(2)新町政の体制と当面の諸問題	五六六	二 工場誘致と流通業務団地 産業団地	六三一
二 富士見町政の進展と財政	五六六	(1)カゴメ(富士見工場の誘致／(2)三菱メント工場の誘致 と経緯／(3)諏訪南インター周辺流通業務団地とセイコーエ ブソン㈱／(4)富士見高原産業団地の開発／(5)建設業と採石	六三二
(1)昭和三十年代から四十年代へ／(2)昭和五十年代から平成 年代へ	五六六	業	五六一
三 富士見町政の発展	五七二	大型店が進出した商業と地域金融	六四三
(1)町章 町花 町木と町民憲章の制定／(2)姉妹町 友好都 市の提携／(3)二十一世紀への手紙／(4)住宅団地の造成と分 譲／(5)地域活性化事業	五八八	一 商業の近代化と発展	六四三
第二節 農業 林業 漁業の変貌	五八八	(1)商工会法による富士見町商工会の発足／(2)町の商業近代 化構想／(3)変動する富士見町商業	六四三
一 新しい農業生産	五八八	二 地域と結びついた金融	六五三
(1)農業構造改善事業／(2)農業の機械化と畜産の推移／(3)米 の生産とその調整／(4)新しい農業の選択	六一〇	(1)諏訪信用金庫富士見東支店の開店／(2)農業協同組合の金 融	六五三
二 農業協同組合の合併と発展	六一〇	第五節 観光開発と保健休養地	六五六
(1)四つの農協から町農協への統一／(2)町農協から広域農協へ	六一四	一 八ヶ岳 入笠山麓の観光開発	六五六
三 公有林 森林事業と国有林	六一四	(1)小林清章による八ヶ岳山麓開発の先駆／(2)県企業局によ る開発／(3)八ヶ岳地区の開発概要と経過／(4)入笠地区開発 の概要と経過	六五六
(1)新財産区の設定／(2)富士見町森林組合／(3)沢入山国有林 払い下げと経営／(4)森林事業の見直しと展開／(5)八ヶ岳国 有林を管理した宮林署	六一四	二 八ヶ岳保健休養地の発展	六六四
四 富士見町の水利と漁業	六一三	(1)八ヶ岳山麓を駆けた一万人の若者たち／(2)創造の森	六六四

三 パノラマスキー場	六六七
(1) スキー場の開設と盛況 / (2) スキー場の苦境と回生への努力	
第六節 福祉行政の展開	七〇六
一 中央東線の近代化	六七一
(1) 中央東線の電化 / 複線化と特急あずさの登場 / (2) すずらんの里駅開業	六七二
二 道路建設と整備	六七七
(1) 国道の整備と舗装 / (2) 町内幹線道路の整備 / (3) 中央自動車道の開通と諏訪南インターの設置 / (4) 八ヶ岳西麓広域農道	
三 輸送機関の充実	六八四
(1) 乗合バスによる自動車輸送の変遷 / (2) 富士見町内のタクシー / (3) 貨物輸送 / (4) 交通安全	
第七節 第九節	六八九
一 地域集団電話と有線放送電話	七一三
(1) 農山村地域集団電話と屋外放送 / (2) 有線放送電話	
二 社会福祉の拡充	七一四
一 保健行政の充実	七一五
(1) 国民皆保険制度の充実 / (2) 母子福祉と母子健康センター / (3) 富士見小学校の集団赤痢 / (4) 歯科衛生の充実	
二 保健環境の整備	七一六
(1) 上水道の普及と整備 / (2) 南諏訪衛生センターの設立 / (3) 下水道の整備	
三 福祉行政の展開	七一〇
一 各種団体の活動	七一〇
(1) 富士見町婦人会と女性団体連絡会 / (2) 富士見町連合青年団 / (3) 老人クラブから高齢者クラブへ	
二 消防の近代化と防災	七一六
(1) 常設消防の設置 / (2) 自然災害と七号台風	
三 新しい教育と文化	七二三
一 富士見町立小中学校の出発	七二三
(1) 富士見町立の小学校 / (2) 富士見町立の中学校 / (3) 富士見高校と二つの新設高校 / (4) 謏訪養護学校と装飾美術学校 / (5) 教育課程改善と学校五日制	
二 富士見高原の文化財	七四二
(1) 埋蔵文化財の発掘と保存 / (2) 文化財の指定と活用 / (3) 民俗文化財の収集と保存	
三 生涯学習と文化・スポーツ	七四八
(1) 生涯学習の構想と町民広場 / (2) 富士見町民の文化活動 / (3) 富士見町民のスポーツ活動	

宗教編

第一章 神社	七六七
第一節 祖先が祭祀した産土神	七六九
一 神社の位置と祭神	七六九
二 地主神千鹿頭神	七七三
三 磐座信仰を留める神社	七七四
第二節 原始狩獵神事を伝える御射山祭り	七七六
一 狩獵神事と神野	
第二章 寺院	七九三
第一節 仏教と寺院	七九五
第二節 富士見町域にある寺院	七九五
一 瑞雲寺	七九五
二 高栄寺	七九六
第三節 法隆寺と薬師庵	七九八
三 法隆寺	七九八
四 長泉寺	七九九
五 三光寺	八〇一
六 真福寺	八〇三
第三章 キリスト教	八〇五
第一節 諏訪地域へのキリスト教伝道	八〇七
第二節 富士見町域のキリスト教	八〇七
一 富士見伝道所の設立と消滅	八〇七
第三節 富士見教会の設立と発展	八〇七
二 富士見教会の設立と発展	八〇七
三 カトリック教会の動き	八〇九
第三章 御射山祭りと御射山社	七七八
第一節 富士見町域にある神社	七八一
一 自然的条件を満たす神社	七八一
二 信仰心を満たす神社造営	七八三
第二節 御社宮司	七九〇
一 御社宮司	七九〇

民 俗 編

第一章 ムラの生活 八一五

第一節 ムラのしくみとムラ人 八一七

第二節 ムラ寄り合い 八一九

第三節 共同生活 八二〇

第二章 家族と同族 八二五

第一節 家族と家 八二七

第二節 家の存続 八二七

第三節 家族構成と家族の役割 八二九

第四節 家族員の役割 八三二

第五節 世代の交代 八三四

第六節 マキ(同族) 八三七

第三章 生業 八四一

第一節 米作り 八四三

第二節 畑作り 八六四

第三節 養蚕 八六九

第四節 農産物の加工と自給自足 八七七

第五節 農具と家畜 八八三

第六節 季節労働と行商 八八八

第七節 くらしと里山 八九〇

第八節 ムラの職人 八九六

第四章 くらしと年中行事 八九九

第一節 普段のくらし 九〇一

四 食事 九一〇

五 家での仕事 九一三

第一節 特別な時のくらし 九一六

一 お正月の支度 九一六

二 衣類や身につける物 九〇一

三 雨具や防寒具 九〇九

二 正月の行事	九一九
三 春の行事	九二七
四 お盆の行事	九三六
五 秋の行事	九四〇
六 冬の行事	九四一
第五章 人の一生	九三三
第一節 お祝い事	九四三
一 お 婚 礼	九四三
二 お 披 露	九五〇
三 出 産	九五一
四 成長の祝い	九五六
第二節 長寿の祝い	九六〇
第三節 お見舞 お悔やみ事	九六一
第四節 一 病 気	九六二
第五節 二 お 葬 式	九六三
第六節 三 供 養	九六九
第六章 ムラの神々	九七三
第一節 ムラの神々	九七三
第七章 ふるさとの方言	九七八
第一節 さ ま ざ ま な 講	九七八
二 語 法 に つ い て	九八六
三 語 彙 に つ い て	九九一
第二節 町域内の方言分布について	一〇一三
一 音韻について	九八四
第三節 富士見町域の方言	九八三
一 富士見方言の特徴	九八四

年表

年表	一一〇	あとがき	一〇五〇
計量単位換算表	一一〇二	『富士見町史』下巻 執筆者一覧	一〇五二
富士見町域の戸長 副戸長 村長 助役 収入役および 富士見町長 助役 収入役一覧	一一〇四二	編纂関係者一覧	一〇五五
富士見町議会正副議長一覧	一一〇四三	写真 図 表目次	一一〇六九
	一一〇四八		